

カノコユリの保全

05/8/3 更新



カノコユリが平成 14 年 4 月に市の花に決まりました。

「市の花選定委員会」に副会長の川内野がオブザーバーとして参加し、市の花に何が相応しいかを検討するため、基礎資料を作成するなどしました。検討の結果、自生種をキーワードに佐世保の特徴を表している「スイセン・ハマユウ・カノコユリ・トビカズラ・ハマボウ・ヤマツツジ」の 6 種を委員会で選定し、その中から市民投票でカノコユリが選ばれました。

本種は形態によって、カノコユリとタキユリの二つに分けられます。タキユリは九十 九島の崖地などに生え、崖から下がって咲き花弁が球形に反り返るのが特徴です。一方カノコユリは茎が直立し、花弁はタキユリほど反り返りません。学者によっては二つを分ける人もいますが、1 種として扱う人もいます。佐世保の市花では、これら二つを分けずにカノコユリとしました。

委員会で最も危惧していたことが、市花に決定後わずか 2 ヶ月で起きました。里美町の名前が出たせいもあり、集中的に採取されたのです。

ここ十数年、殆んど採取されなかったカノコユリが突然採取されるようになったのは、市花として、その美しさが紹介されたからでしょう。非常に残念なことです。



< 鱗茎を採取するために掘りとられたカノコユリ(蕾が沢山付いていた) >

7 月 27 日(日)には市の主催でカノコユリ見学会が催されることになり、そのための下見を数回しましたが、その下見をしている 30 分ほどの間にも開花したカノコユリが 10 株ほど鱗茎ごと持ち去られることもありました。

カノコユリは市のレッドデータブックでは絶滅危惧 B類(環境省や長崎県も同様)・タキユリは絶滅危惧 に選定されるほど現在では少なくなっており、この状況を放置しておけば絶滅の危険度は更に高くなります。

そこで、市企画調整課と協働で保全を図ることにしました。市には地元の方々に木子(もっこ:地中の茎にできた小さい燐茎)と種子の提供をお願いしてもらいました。

種子は里親制度をとり、市民に里親となって育ててもらい、ある程度大きくなったところで、それを本来の自生地に戻すというものです。木子は当会で育て、自生地に戻すことにしました。

木子は11月23日(土)、企画調整課の宮崎・木村さん、当会からは米・山本・近藤夫妻・川内野の7人で里美町に採取に行きました。町内会長さんや地元の方々に自宅の裏山などに案内して頂いたお陰で、たくさんの木子が採取できました。一方種子は地元の方々に採取して頂き市へ届けてもらいました。種子は2月始めに申し出られた70人程(一人50粒程度)の里親に配布されました。



< 木子の採取 >



< 木子の採取を終えて >

木子の植え付け

2月16日(日)、木子の採取に参加した会員5人で植付け(ポット)を行いました。バーミキュライトの中で保存していた木子からは、既に新しい根や新芽も出ていました。新芽や根を傷つけないように慎重に植え付けをしましたが、全部でなんと450近くの木子がありました。

木子は大小さまざまで、大きいものは来年には自生地に返却できると思います。カノコユリが30年ほど前のように普通に見られる夏の花になることを願っています。



< 木子を植え付ける >



< 芽生えたカノコユリ 03.4.6 >

03年8月27日に「カノコユリを大切に」との看板を市が立てる。



当会が木子から育てた里美町産のカノコユリの苗25本を植える。



イノシシによる被害が甚大、80%以上が掘られていた。カノコユリの災難は人に続いてイノシシである。困ったものだ。



相浦西小学校6年生がカノコユリの木子を植え付ける 03/12/1

佐世保市花カノコユリの木子(もっこ)の植付け カノコユリが多く自生する里美町でイノシシが球根(鱗茎)を食べる被害で、壊滅的な影響を受けています。今年の夏に食べ痕から「もっこ」を丹念に拾い集めバミキューライトに埋め込み保存していました。

昨年は地元の方の協力を得て、もっこを採集し、当会で植付けを行い、大きくなったものはすでに現地の戻しました。昨年は人による採取で個体数が減少したことに対応するものでした。ところが、今年はイノシシの被害から個体減少を防止するためとなりました。

昨年に続き今年も当会で植付けをする予定でしたが、相浦西小学校から6年生の「ボランティア活動として取り組むこと



もっこ植え付け

がないだろうか」の問合せに応じて、「もっこ」の植付けをしてもらうことにしました。そのための準備として、保存している「もっこ」の数を調べました。これには チビッコが手伝ってくれました。なんと 550 個もの「もっこ」がありました。

もっこを植え付けたポットを小学校で管理してもらうには不安が大きいので(本当はそこまでして欲しい)、ポットを置く場所を探していたら、市公園街路課がスポーツの里を紹介してくれました。スポーツの里は周囲を柵で囲ってあるし、管理も十分行き届くのでお願いすることにしました。



木
子の数を数える

さらに、現状で里美町に戻してもまたイノシシの被害に遭うことは分かっていますので、一部を生育地外保全として、スポーツの里(烏帽子岳にも自生していますし、距離的に近い)ので遺伝子的にも問題がない)に植栽して保全し増殖をすることとしました。この施設に訪れた人にも花が見てもらえるので、一石二鳥でしょう。

2年間育てたカノコユリを植え付ける 04/6/5

平成 14 年 11 月 23 日(土)に採取した木子を 2 年間育てました。かなり大きくなったので、産地の里美町に 213 株を移植をしました。

当日は当会の会員 25 名が集まりました。3 班に分かれ、採取圧が大きく殆どカノコユリが見られなくなった場所を選び植え付けました。

こども達の参加もあり、賑やかな作業となりました。



カノコユリを植える



植え付けを終えて

////////////////////////////////////

3年間育てたカノコユリを植え付ける 04/6/5

小さい木子から3年間育てたカノコユリ70株を植え付けました。



採られないことを願いつつ、最も採取の被害が多い道路脇に補充しました。



植え付けたカノコユリの苗。

7月24日に植え付けた苗の様子を見に行きましたが、植えたところに穴が空いている場所が10カ所以上ありました。盗られたのだろうか？いずれにしても残念。

木子はクローンなので、これを何時までも植え続けると、種の存続が危ぶまれることになるので、続けるならば種子による増殖をせねばならないでしょう。

*2011年の状況です。私たちが植戻した殆どの場所はイノシシの被害で消滅しましたが、04/6/5に植戻した一部は人家の側であり、管理をいただいているので健在です。

イノシシの被害はノヒメユリにも及んでおり、急激に減少しています。また、本種の多い南九十九島でも崖地を除いて被害が見られます。